発売から1年、高速PLC機器

LAN工事が困難な建物で強み発揮

高速PLCが市場に登場して1年。個人市場では発売当初のブームは一段落したものの、堅調に売れ続けている。法人市場では、メーカー各社の試行錯誤の結果、高速PLCが強みを発揮する用途が見えてきた。

文◎藤田 健（本誌）

2006年10月4日の電波法関連の省令改正により、屋内限定ながら国内で解禁となった高速PLC。12月からはメーカー各社からモデム（アダプター）が順次市場に投入された。

あれから1年。高速PLCは個人市場にどのように受け入れられたのか。また、期待されている法人市場での可能性はあるのか。

本稿では、07年の市場を振り返るとともに、08年以降の高速PLCの可能性を展望したい。

ホームネットワークの実現を

まず、先行する個人市場の動向を振り返っておこう。パナソニック コミュニケーションズ（PCC）・PLC事業推進プロジェクト事業戦略グループの宮崎富弥グループマネージャーは「スタートが良すぎた」と語る。通常、新たな通信関連機器が登場した時は、市場が立ち上がるまで時間がかかるものだ。しかし高速PLCは、設定が簡単等の理由で当初から好調な売れ行きで、一時的に生産が追いつかない状況だった。

07年夏以降は、発売当初の話題性と売れ行きからすれば地味な印象で、需要が一段落したようにも思える。だが宮崎マネージャーは「急伸が止まっただけで、当初の想定以上のペースで安定的に売れ続けている」と語っている。

次に製品動向を押さえよう。当初は専用アダプターのみだったが、7月にNECとNECアクセステクニカがPLCモジュールを組み込んだブロードバンドルーターとコンセント直結型PLCアダプターのセットモデルの出荷を開始した。また、アイ・オー・データ機器とバッファローは7～8月にかけてACアダプターにPLCモジュールを組み込んだ製品を開発し、ブロードバンドルーターや無線LANルーターとのセット販売を開始するなど、PLCモジュールを組み込んだ通信機器が登場し始めた。

組み込みモジュールの登場で、今後は家電へも高速PLCが搭載されるようになる。これにいち早く着手したのがHD-PLC方式の開発会社である松下電器産業とPCCだ。両社は9月に「HD-PLCアライアンス」（**図表1**）を設立し、同方式の普及や高速PLCを用いた次世代ホームネットワークの実現を目指している。

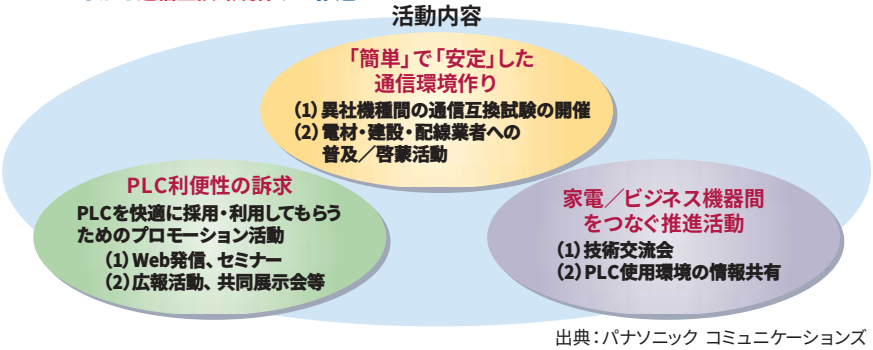
その第1ステップとして9月に投入したのがプラズマ／液晶テレビ「VIERA」と「どこでもドアホン」をドアホン用PLCアダプターで連携させるPLCドアホンシステムだ。来客の画像をVIERAの2画面表示の小画面で確認できるほか、DVD/HDDプレーヤー「DIGA」での録画も可能だ。

求められる異方式の互換性

今後、さまざまな情報機器や家電にPLCモジュールが組み込まれるよ

図表1　HD-PLCアライアンスの詳細

■発足日：2007年9月25日
■発足目的
・豊かなユビキタスネットワーク社会の創造に向け、高速電力線通信「HD-PLC」方式の普及促進
・「HD-PLC」方式に準拠したPLCネットワーク機器、PLC組み込み機器間において「安心」かつ「簡単」につながる通信互換環境作りの推進



出典：パナソニック コミュニケーションズ